

製・配・販連携協議会  
運営方針について(案)

2017年7月7日  
製・配・販連携協議会 事務局

1

## 構成

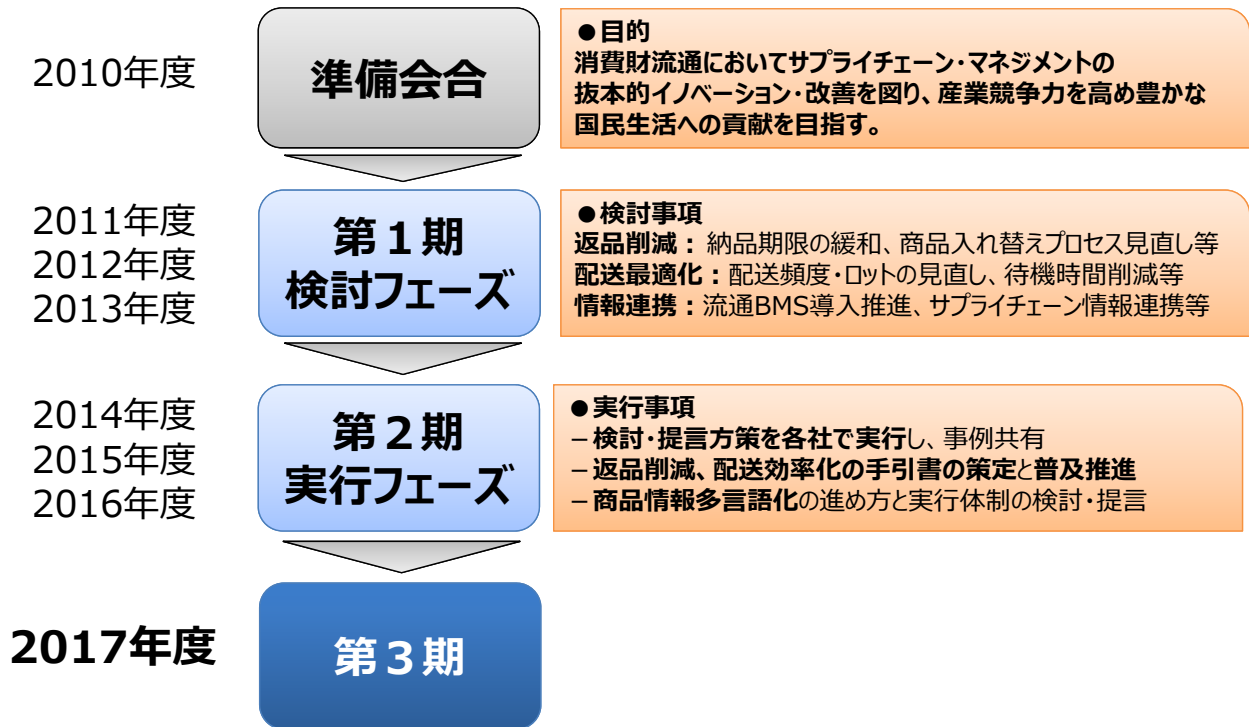
---

1. これまでの活動
2. 2017年度の組織体制
3. 運営方法
4. 参加メンバーについて
5. サプライチェーンイノベーション大賞の公募要項
6. 今後のスケジュール

2

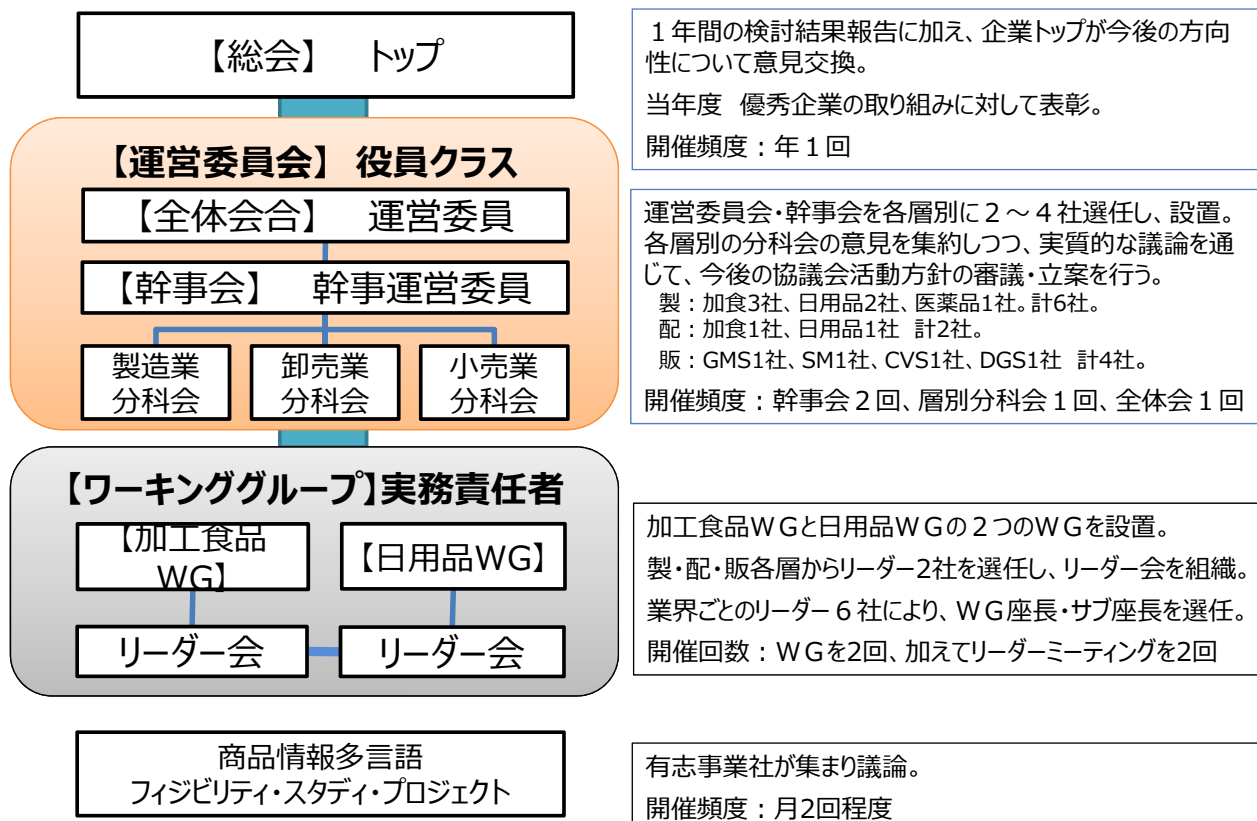
# 1. これまでの活動

- 協議会発足から第1期の3年間は課題に対して検討・調査を実施
- 第2期の3年間は実行、業界団体等へ広く活動の普及推進



3

## (参考) 2016年度の組織体制



4

## 2. 2017年度の組織体制 設置テーマ

### 1. ビジョン・テーマの検討

- ① **運営委員会**
  - ビジョンの総括、次のビジョンの提言
  - 取組テーマの検討と設定
    - 3層での重複の解消、標準化に資するもの
    - 社会課題の解決に対し3層で協調領域を見出しうるもの
    - 将来のニーズに応える、将来の流通像に資するもの

### 2. 既存テーマ

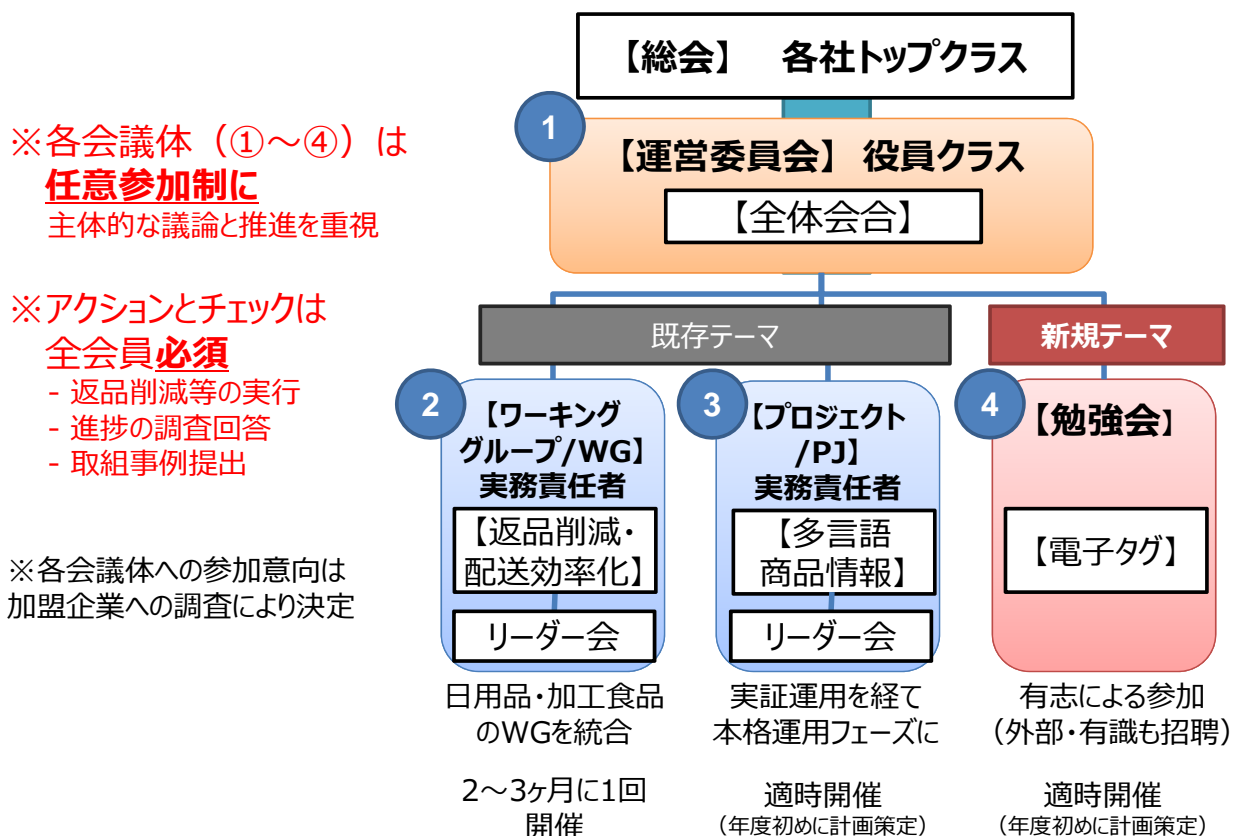
- ② **WG（返品削減・配送効率化）**  
推進フェーズに（日用品と加工食品のワーキンググループを統合）
- ③ **PJ（多言語商品情報）**  
本格運用フェーズに（フィジビリティスタディからプロジェクトに）

### 3. 新規テーマ

- ④ **勉強会（電子タグ）**  
電子タグに関する取組の検討・情報共有

5

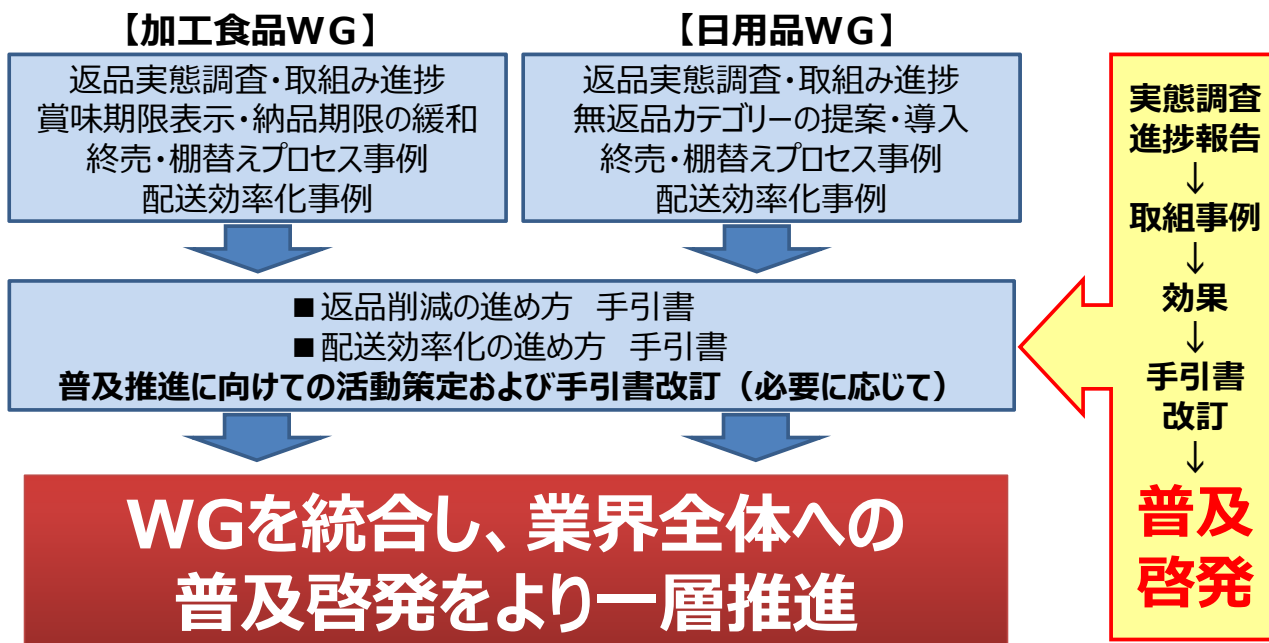
## 2. 2017年度の組織体制 組織図（案）



6

### 3. 運営方法 「返品削減・配送効率化WG」

- 策定した手引書を活用し、業界カテゴリーを超えて、実態調査や事例共有を行うことで相乗効果を高め、業界団体や地域組織など関係機関への働きかけを通じて業界全体への普及啓発をより一層進める。



7

### 3. 運営方法 「多言語商品情報プロジェクト」

- 訪日外国人観光客が、2016年は過去最高の2,403万人に到達。2020年に4,000万人、2030年に6,000万人の目標が設定された。（「明日の日本を支える観光ビジョン」）
- 一方で、訪日外国人観光客が、日本でショッピングをする際には、言語の問題（説明・価格表示）で不満や心配を感じるケースが多い。
- こうした不満点を軽減し、買物需要を一層拡大すべく、多言語で商品情報を提供する共通インフラを構築・運用するあり方を実証実験を通じて具体的に検討。
- 16年度の実証実験（フィジビリティスタディ）から、17年度は本格運用（プロジェクト）へ。
- **本協議会でも、プロジェクト参加企業を広く募り、取組をより推進。**
- さらに本協議会以外の企業も、**業界団体を通じて広く募集し、オールジャパンの取組に。**

8

### 3. 運営方法 「電子タグ勉強会」

#### 経済産業省の「電子タグ検討会」

- サプライチェーン全体の生産性向上を狙い、経済産業省が電子タグの取組を推進し、7月に「検討会」の第1回目を開催予定。
- この「検討会」は、2018年に実施予定の実証実験に、手弁当で参加いただける企業様を、経済産業省から製・配・販の各層から個別にアプローチ中。

#### 本協議会の「電子タグ勉強会」

- 実証実験に参加することが条件の上記「検討会」とは別に、「検討会」で共有された最新情報や実証実験の取組を、本協議会の会員に共有したり、意見交換を図るもの。

※本協議会の会員で、上記実証実験に参加を希望される企業は、経済産業省にご連絡ください。ただし、運営上のキャパシティから参加社数をご調整させていただく可能性がある点、ご了承ください。

9

### 3. 運営方法 各会員の役割

加盟企業活動内容一覧	①加盟会員	②運営委員	③WG、FS、勉強会会員
返品実態調査、取組事例 報告	●	●	●
策定された解決策の実行拡大・普及推進	●	●	●
活動の事例共有（SCI大賞選考対象）	●	●	●
運営委員会への参加		●	
ワーキンググループ等への参加		●	●

※①～③の会員区分は、総会後に加盟企業へ調査依頼して決定

### 3. 運営方法 ①加盟会員

---

- 協議会総会で報告された解決策について、自らが原動力となり実行拡大し業界内へ普及推進活動を行う。
- 返品削減実態調査、取組事例のフォローアップ
- 加盟委員からの協議会運営に対する意見については、メール等で収集し、運営委員会へ報告し、議論に反映していく。
- 参加頻度：年に1回（総会に参加）

11

### 3. 運営方法 ②運営委員

---

- **実質的な議論を通じて、今後の協議会活動方針を審議・立案する。**

- **主体的な議論をする企業が参加**

- ビジョンの総括、次のビジョンの提言
- 取組テーマの検討と設定
  - 3層での重複の解消、標準化に資するもの
  - 社会課題の解決に対し3層で協調領域を見出しうるもの
  - 将来のニーズに応える、将来の流通像に資するもの

- 年度初めに、運営委員による委員長の選出
- 設定テーマについて議論・検討するWGを必要に応じて設置
- 必要に応じて事例共有内容から各手引書の改訂実施
- 返品削減実態調査、取組事例のフォローアップ

※テーマ設定に関しては、協議会内で策定した内容や経済産業省案件によりWGや検討会・勉強会等を設置

- 参加頻度：2～3ヶ月に1回  
年に1回（総会に参加）

12

### 3. 運営方法 ③WG、PJ、勉強会会員

---

■ 運営委員会にて設定されたテーマごとに必要に応じて、ワーキンググループ（WG）、プロジェクト（PJ）、勉強会を設置し、議論・検討を行う。

- 参加企業数によってリーダー会を設置
- 年度初めに、各会の参加会員により座長を選出
- 解決すべきテーマの議論・検討、実証実験等
- 総会（年度末）に向けたアウトプットの策定
- 返品削減実態調査、取組事例のフォローアップ

■ 参加頻度：2～3ヶ月に1回（リーダー会は2ヶ月に1回程度）  
年に1回（総会に参加）

13

### 4. 参加メンバーについて

---

➤ 加工食品および日用品の消費財流通における製造メーカー（製）、中間流通・卸売業（配）、小売業（販）の事業者

➤ 関係する業界団体（候補一覧）

【小売】

- ・新日本スーパーマーケット協会
- ・日本スーパーマーケット協会
- ・日本チェーンストア協会
- ・日本チェーンドラッグストア協会
- ・日本ドゥ・イット・ユアセルフ協会
- ・日本フランチャイズチェーン協会

【卸売】

- ・全国化粧品日用品卸連合会
- ・日本医薬品卸売業連合会 大衆薬卸協議会
- ・日本加工食品卸協会
- ・全国菓子卸商業組合連合会

【製造】

- ・日本医療品工業会
- ・日本OTC医薬品協会
- ・日本化粧品工業連合会
- ・日本石鹼洗剤工業会
- ・日本家庭薬協会
- ・日本缶詰びん詰レトルト協会
- ・日本即席食品工業協会
- ・全国清涼飲料工業会
- ・全日本菓子協会

➤ 事務局

経済産業省、流通システム開発センター、流通経済研究所

14



## 5. サプライチェーンイノベーション大賞の公募要項

- サプライチェーン全体の最適化に向け、製・配・販各層の協力の下、優れた取組を行い、業界を牽引した企業に対して、その功績を表彰する。
- 進め方
  - 受賞を希望する各企業は、選考委員会開催前までに、本協議会ビジョンの理念を最も実現していると思われる事例を、本協議会事務局に提出する。  
選考委員会は提出された事例を評価し、各賞の受賞企業を決定する。
    - ・**返品削減**に関する取組と成果事例
    - ・物流環境変化を踏まえた**配送効率化**事例など
  - 2018年総会において、優秀企業を表彰しHP等で公表する。
    - ・応募資格：  
メーカー（製）、中間流通・卸売業（配）、小売業（販）の連携により、サプライチェーン・マネジメントの抜本的なイノベーション・改善を実現した企業
    - ・表彰企業：
      - 【大賞】 製・配・販から1社表彰
      - 【優秀賞】 製・配・販から各層1社（計3社）表彰

本協議会以外の  
企業も表彰対象に※

※本協議会の会員企業と関わりがあること 15

## 6. 今後のスケジュール（予定）

- 17年度の参加とりまとめ
  - 以下、事務局より順次ご案内。
  - 参加登録（運営委員・各WG） および 名簿更新
  - 次回総会希望日
- 運営委員会
  - 2017年7-8月 運営委員の決定
  - 2017年8月 第1回会合、委員長の決定  
(以降、2~3カ月に1回会合開催)
- WG活動
  - 2017年7-8月 リーダー社、座長の決定
  - 2017年9月~ WG活動開始